
黒

山羊ノ宮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒

【Nコード】

N4689P

【作者名】

山羊ノ宮

【あらすじ】

例えばそれは青でもいいはずだった。

もつと言えば、赤や白でも、それこそオレンジやピンクなんかでも良かったのだと思う。

けれど、私は黒を選んでしまうのだ。

例えばそれは青でもいいはずだった。

もつと言えば、赤や白でも、それこそオレンジやピンクなんかでも良かったのだと思う。

けれど、私は黒を選んでしまうのだ。

別に黒が嫌いと言う訳ではない。

むしろ好きな方だ。

心理学的に黒は落ち着く色だそうだ。

確かに分かる気がする。

でも、買い物に行くたびに無意識に黒ばかりを手にとってしまうのはどうかと思うのだ。

誰が言ったのかは忘れてしまったけれど、黒ばかり着ていると黒しか似合わない女性になってしまうそうだ。

そんな言葉を真に受けるつもりはなかったけれど、ピンクのコートを着た時に自分でもしっくりこない感じは確かにあったのだ。

何故こんな風に思ったかと言うと、会社でそんな事を思わせる事があったからだ。

まあ、たいしたことではない。

前日、突然の雨に降られてコートがびしょびしょになった。

コートを乾かしたが、乾ききらなかったので、仕方なく昔着ていた薄いピンクのコートを引っ張り出してきたのである。

そうすると会社で同僚に「デート？」と聞かれた。

それだけの話である。

私は家に帰って、鏡に全身を写してみる。

そんなに浮ついて見えたのだろうか？

それほど私には似合わなかったのだろうか？

何だかいつも見ている鏡だと言うのに、じつくりと見るのはずいぶん久しぶりの様な気がする。

髪の色を明るい色に変えれば、大分印象も違うだろうか。

それとも髪型を変えた方がいいのだろうか。

私は無駄に長い自分の髪をいじくりまわす。

仕舞いには面倒だとタンスの肥やしになったホットカーラーまで取り出す始末。

どうにもバシッとは決まらない。

いや、もうこうなったらバツサリ切った方がいいんじゃないか。

そして、思う。

これじゃあ本当にデートの準備をしているみたいだなと。

鏡の中の私が笑う。

照れて恥ずかしそうな彼女は、もしかしたら少しくらいは可愛く見えるかもと思った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4689p/>

黒

2010年12月13日02時04分発行